

編輯だより

九月。秋の聲に先だつ恐怖と凄惨の思ひ出、それは今年の、此地の、此雜誌の、私には止なを得ない。大正十二年九月一日の天と人との争闘は、人に取てあまりに不意打の弱味が多かつた、然し一めぐりの春夏は不屈の力と永遠の成長にみち／＼た。

黒く焼けた街路樹からは美しい若葉がもえ、トタン屋根のバラツクからは、力強い産聲が聞こえて、健かな嬰兒は日々々に生ひ立ち、思はぬ樹影に楽しい子等の集りが榮えて行く。

生成は焼野の面に、あからさまにそして力強い。目くるめく日輪の光が遠ざかつて、凝端の柳の影には更に涼風が生れた。

近づく火星を打ちあふぐ深碧の空は今更に美しく、今更に大きい、汗みどろの労働者は夜半の冷氣に熟睡した、高い秋の日光は八月のそれよりも更に輝やかしい、一人／＼の前にそして我等の前に、秋が来る。秋の生命をそへらして我等の足は更に踰る。

我等の歩み、我が歩み、更によき十月へ。(編輯子)

御注意	廣告	料	定價表		郵稅
			冊數	價	
△外國行郵稅は一部十二錢の割にて御拂込下さい △本誌購讀御希望の方は定價表により振替貯金で御送金下さい(東京四六書堂會番教文書院宛) △前金切れの節は帶紙に「前金切」と致します。 △郵券送金の節は一割増で一錢切手に願ひます。 △本誌の一切は教文書院宛御照會下さい。	普通面一頁	金四拾五圓	同	同	同
	表紙裏付	金七拾圓	同	一頁以下御斷要	同
	表紙前付	金七拾圓	同	同	同
	十二冊前金	金四圓貳拾錢	同	同	同
	六冊前金	金貳圓拾錢	同	同	同
	一冊	金參拾五錢	同	同	同

大正十三年七月二十八日納本
大正十三年八月一日發行 第二第十四卷函號

無轉載 斷禁

編輯者 倉橋惣三
 發行者 東京市下谷區上根岸八十八番地 越元新吉
 印刷者 東京市小石川區戸崎町七十三番地 沖田瀧次郎
 印刷所 教文書院印刷部

發行所

教文書院

東京上野公園寛永寺坂下(上根岸八十八)

電話下谷三〇四七番・一九五一番
振替東京四六一一一番